

令和 7 年 度

軽 井 沢 町 の 統 計

16. 観光

124. 宿泊施設の状況

単位: 軒・人

年次 項目	令和3		4		5		6		7	
	軒数	収容員	軒数	収容員	軒数	収容員	軒数	収容員	軒数	収容員
ホテル	51	10,246	56	10,318	56	9,903	59	10,265	61	9,513
旅館	13	585	12	472	12	499	10	421	9	330
ペンション	52	1,311	50	1,164	49	1,139	53	945	40	870
民宿	15	897	15	862	14	760	13	728	13	728
合計	131	13,039	133	12,816	131	12,301	135	12,359	123	11,441

※ホテルの項目には会員制ホテルも含む

資料: 軽井沢観光協会(各年1月1日現在)

125. 観光客数の状況

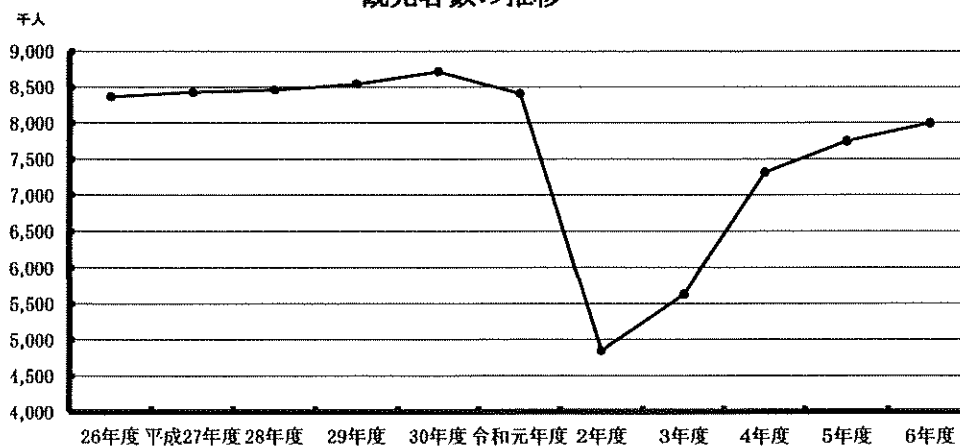
単位: 千人

項目 年度	総数	春 (3. 4. 5月)	夏 (6. 7. 8月)	秋 (9. 10. 11月)	冬 (12. 1. 2月)
平成27	8,431	1,113	4,325	2,098	895
28	8,465	1,090	4,452	2,004	919
29	8,547	1,104	4,455	2,048	940
30	8,717	1,197	4,402	2,105	1,013
令和元	8,416	1,255	4,127	2,023	1,011
2	4,852	270	2,180	1,777	625
3	5,635	724	2,341	1,709	861
4	7,320	987	3,168	2,052	1,113
5	7,749	1,180	3,383	2,050	1,136
6	8,005	1,208	3,433	2,152	1,212

※推計

資料: 観光経済課

観光客数の推移



追分を愛した抒情と知性の作家・堀辰雄



終焉の地で
初めての

辰雄忌

日時 令和7年

5月28日(水) 午後1時より

会場

軽井沢町追分宿 樹下石仏の寺
浅間山 泉洞寺

追分宿 分かれにて

「辰雄忌」実行委員会 ●追分区 ●浅間山泉洞寺 ●泉洞寺護持会 ●泉洞寺仏教壮年会
●追分観光産業振興会 ●しなの追分来しませ係 ●追分区

堀辰雄 略年譜 (追分を中心に)

- 明治37年(1904) 12月28日東京市麹町区生まれ
大正12年(1923) 19歳 ●第一高等学校在学中 室生犀星を知り初来軽
その紹介により芥川龍之介を知る
昭和4年(1929) 21歳 ●夏の末、芥川龍之介らと追分をドライブする(初めての追分)
昭和4年(1929) 25歳 ●東京帝大卒 卒論「芥川龍之介論」
昭和7年(1932) 28歳 ●『聖家族』刊
昭和8年(1933) 29歳 ●立原道造を知る ●『麦藁帽子』刊
昭和9年(1934) 30歳 ●『美しい村』刊
昭和12年(1937) 33歳 ●油屋全焼「かげろうの日記」原稿郵送のため難を逃れる
昭和13年(1938) 34歳 ●室生犀星夫妻媒妁により加藤多恵と結婚 ●『風立ちぬ』刊
昭和14年(1939) 35歳 ●3月 立原道造 享年25
昭和16年(1941) 37歳 ●『菜穂子』刊「〇村にて」
昭和19年(1944) 40歳 ●9月 油屋隣に転居 ●「樹下」を「文藝」に発表
昭和21年(1946) 42歳 ●3月『堀辰雄作品集』全八巻(角川書店刊)の打合せのため上京
在京中に具合が悪くなり、追分に帰り病床生活を続ける
昭和26年(1951) 47歳 ●7月 追分、現在の記念館の地に新居を建て移る
昭和28年(1953) 48歳 ●『野村英夫詩集』跋文を仰臥のまままで執筆、絶筆となる
5月28日 午前1時40分 辰雄 逝去 享年49
●6月3日 東京増上寺で川端康成葬儀委員長のもと葬儀執行
昭和29年(1954) 東京多摩霊地に埋葬
平成5年(1993) 堀家宅を寄贈された町が整備し、堀辰雄文学記念館を開館
平成22年(2010) 4月16日 夫人 堀多恵 逝去 享年96
(文責：事務局 櫻井)

追分を生涯愛して下さった我らが堀辰雄先生の
文学界での偉大な業績に敬意を表するとともに
七十二回忌にあたり心より哀悼の意を表します
追分区

コーヒーション アトリエ村ぐらし 軽井沢町大字追分六七一 電話〇二六七四三八二〇四	軽井沢町商工会 西軽井沢支部	泉洞寺 泉洞寺護持会 泉洞寺仏教壮年会 追分観光産業振興会 追分区	泉洞寺 有限会社 オリオン精機 御代田町御代田三七六二一 電話〇二六七三二五六七二
信州手打そば処 武田そば 風林茶家 軽井沢町大字追分二一七 電話〇二六七四二三八九三	有限会社 東城印刷 軽井沢町大字追分三二〇 電話〇二六七四五一七二〇	株式会社 松井 軽井沢町大字追分五五二一 電話〇二六七四五五〇七三	有限会社 萩原正 東京都大田区南蒲田二丁目 電話〇三三三三四三二四二

《「辰雄忌」事務局》 曹洞宗 浅間山 泉洞寺

【堀辰雄七十二回忌追善法要】

泉洞寺本堂 午後一時

式次第

司会 青木裕子さん
(軽井沢町立図書館名誉館長
・軽井沢朗読館館長)

- 一、開式の辞 辰雄忌実行委員・泉洞寺護持会会長 荻原宗夫
- 一、殿鐘三会
- 一、導師入堂
- 一、黙 禱
- 一、主催者(辰雄忌実行委員長)挨拶 追分区区長 内堀次雄
- 一、来賓紹介 堀家代表 菊地俊哉様・響子様ご夫妻
軽井沢町町長 土屋三千夫様
堀辰雄文学記念館館長 伊藤京子様
- 一、来賓代表追悼の言葉 軽井沢町町長 土屋三千夫様
- 一、読経・焼香 ○指名焼香 ①辰雄忌実行委員長 追分区区長 内堀次雄
②堀家代表 菊地俊哉様・響子様ご夫妻
③軽井沢町町長 土屋三千夫様
④堀辰雄文学記念館館長 伊藤京子様
⑤辰雄忌実行委員
・泉洞寺護持会会長 荻原宗夫
・泉洞寺仏教壮年会会長 土屋一男
・追分観光産業振興会会長 土屋一男
・しなの追分楽しませ隊隊長 今村安宏
・追分佳民と別荘佳民の会追分会 会長 依田丞司
副会長 那須由利
・地元町議会議員 福本 修
・追分会地元事務局 依田 功
・実行委員会広報 藤原 勇彦
- 参列者 自由焼香
- 一、閉式の辞 辰雄忌実行委員・追分観光産業振興会会長 土屋一男
- 一、導師退堂
- く参列者の皆様は花一輪を持ち寺墓地内の樹下石仏(蘭痛地蔵尊)前に移動く
- ◎樹下石仏前(堀辰雄の愛した石仏) 読経 献花
- く献花が終わりましたら再び本堂へお入り下さいく
- ◎泉洞寺本堂 朗読 堀辰雄『樹下』 軽井沢町町長 土屋三千夫様
- ◎感謝御礼の言葉 辰雄忌事務局 泉洞寺住職 櫻井朝教

堀辰雄文学記念館が本日休館日のところ町のご好意により

午後一時半から五時(入館は四時半)まで無料で入館できます。

令和7年度特別企画展
Special Exhibition 2025

高原を駆ける

草軽電鉄

地域・人をつないだ

鉄道のあゆみ

森澤男氏撮影 森澤ケン氏提供

KUSAKARU Electric Railway running on the plateau.
The History of a Railway That Connected Communities and people.

2025年
7/15(火)－11/15(土)

開館時間 9:00－17:00
(入館は16:30まで)

料 金 一般400円・小中高生200円
休 館 日 11月10日(月)



デキ12形は「カブトムシ」の
愛称で親しまれていました

軽井沢町歴史民俗資料館

〒389-0111
長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2112-101
TEL. 0267-42-6334
<https://www.town.karuizawa.lg.jp/>





小林恒治撮影「昭和25年 草軽電気鉄道 旧ゴルフ通り踏切手前」

草軽便鉄道の最初の区間である新
軽井沢ー小瀬温泉駅が開通したのは、
大正4（1915）年のことでした。そ
れから110年を迎えたことを記念し、かつ
て浅間山麓の高原地帯を駆け抜け大きな
自然とともにあった草軽電鉄のあゆみを
紹介します。昭和37（1962）年に廃
線となり60年以上が経過しましたが、
今でも多くの方に語り継がれている鉄道
です。当時使用された切符や時刻表、駅
員が用いた道具など豊富な実物資料をご
覧いただきます。また本展は、鉄道が地
域社会で果たした役割や人々に与えた影
響にも触れ、人々と交通の多様な関係性
について明らかにします。

令和7年度 特別企画展
Special Exhibition 2025

高原を駆ける 草軽電鉄

地域・人をつないだ鉄道のあゆみ

関連イベント情報

講演会

※参加無料 7/1～申込先着 70名

『草軽電鉄物語～高原の記憶から～』

調査・取材を通じて見えた景色（予定）

講演 芦原 伸 氏

日時 7月26日（土）13時30分～15時

会場 軽井沢町中央公民館 1階 講義室

映画上映会・講演会

※参加無料 7/1～申込先着 100名

草軽交通株式会社社長遠藤孝氏による講演会と

映画上映会を開催予定

木下恵介監督『カルメン故郷に帰る』を上映します。

日時 9月13日（土）13時～16時

会場 軽井沢町中央公民館 2階 大講堂

学芸員による展示説明会

※入館料・予約無し

日時 10月25日（土）14時～15時

場所 歴史民俗資料館展示室

※歴史民俗資料館の窓口・電話・メールでお申込みください。
※最新の展覧会情報は、HP をご確認ください。



『草津電気鉄道沿線案内』（軽井沢駅前まるほん蔵）



『大正12年 草津電気鉄道沿線案内』（当館蔵）



『昭和34年 草軽電車バス夏季時刻表』（当館蔵）



アクセス

◇北陸新幹線「軽井沢駅」より車で5分（2.8 km）

◇バス停「図書館前」より下車、徒歩 2分

◇しなの鉄道「中軽井沢駅」より車で3分（1.7 km）

軽井沢町歴史民俗資料館

〒389-0111
長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2112-101
TEL. 0267-42-6334
<https://www.town.karuizawa.lg.jp/>



浅間山の南麓に広がる高原地帯

軽井沢の歴史と文化にまなぶ



追分宿郷土館開館40周年記念特別企画展

あさま

ねごし

さんしゆく

展望

浅間根腰三宿のビスタ

令和7年

7月26日(土)～
12月27日(土)

さらしのは右

みよしのは左にて

月と花とを

追分の宿

軽井沢町追分宿郷土館

Karuizawa Oiwakejuku Museum of Local History

長野県北佐久郡軽井沢町追分1155-8

TEL・FAX 0267-45-1466

<https://www.town.karuizawa.lg.jp/>

入館料：一般400円 小中高校生200円

開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日：水曜日(10月31日(金)までは無休)



軽井沢町追分宿郷土館

浅間根腰 三宿のビスタ(展望)

江戸時代、「浅間根腰の三宿」と呼ばれた軽井沢・沓掛・追分の3つの宿場町は、中山道や北國街道をはじめとする交通の要所に位置していました。

浮世絵や版本など当時の絵図からは、街道を行き交う旅人や荷物を運ぶ馬子の姿、参勤交代の様子が描かれ、宿場町の賑わいを感じられます。

また、軽井沢の伝統民謡・追分節からも、往来した人々や宿場町の姿をうかがい知ることができます。

追分からやがて全国へと伝播する「追分節」は、この地域では馬子唄調「追分馬子唄」、座敷唄調「信濃追分」がそれぞれ唄い継がれています。

追分宿郷土館が開館してから40年を迎える今年、旅や文化に注目し、江戸時代の軽井沢をテーマに企画展を開催します。

本展では追分宿を中心に三宿の本陣・脇本陣に関する宿場史料や古文書、什器等民具のほか、浮世絵や版本などの出版物により、宿場町として栄えた軽井沢の歴史と文化について展示・紹介します。



『岐蘇路安見輪図』(1756年)より 追分宿

軽井沢町追分宿郷土館

Karuizawa Oiwakejuku Museum of Local History

【開館時間】 午前9時～午後5時 ※入館は午後4時30分まで

【休館日】 水曜日(7月15日(火)～10月31日(金)は無休)
※水曜日が祝日の場合は開館

【入館料】 一般400円(300円)
小中高生 200円(150円)
※()は20人以上の団体
※堀辰雄文学記念館と共通

〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町追分1155-8
TEL・FAX 0267-45-1466
<https://www.town.karuizawa.lg.jp/>



教養講座

教養講座1

- ・日時 8月9日(土) 13時30分～15時30分
- ・講師 ①山崎 一郎氏(南海トラフ地震防災官)

「長野県の地震について」

- ②窪田 邦晃氏(長野地方気象台 防災管理官)

「気象庁が発表する防災気象情報について」

- ③飯島 聖氏(気象庁浅間山火山防災連絡事務所長)

「浅間山の噴火と浅間山登山について」

- ・会場 追分公民館
- ・定員 50名
- ・参加費 無料

教養講座2

- ・日時 8月11日(月・祝) 13時30分～15時
- ・講師 深谷 大氏(早稲田大学演劇博物館招聘研究員)

・演題 大河ドラマ『べらぼう』こぼれ話 —江戸の出版文化と現代—

- ・会場 追分宿郷土館2階 企画展示室
- ・定員 50名
- ・参加費 無料(別途入館料)



教養講座3

- ・日時 11月16日(日) 14時～16時
- ・講師 岩下 哲典氏(東洋大学史学科教授)

・演題 江戸時代、信州を通過した 蘭学者の長崎への旅、 親孝行者の金比羅さんへの旅

- ・会場 追分宿郷土館2階 企画展示室
- ・定員 50名
- ・参加費 無料(別途入館料)



■教養講座HPはこちら

<https://www.town.karuizawa.lg.jp/page/9204.html>

Access Map



【交通案内】 電車:しなの鉄道軽井沢駅から信濃追分駅まで10分
車:しなの鉄道信濃追分駅から車で5分
徒歩:しなの鉄道信濃追分駅から徒歩30分

堀辰雄文学記念館 令和7年度企画展

「美しい村」の

—イマアジュ—

幻像

*L'Image de
Beau Village*

2025年 7/19_土—12/27_土

……どうにか一方の老嬢は私の物語の中に登場させることは出来ても、もう一方の方は臺所で皿の音ばかりさせてゐるきりで、何時まで経つてもヴェランダに出て来ようとしなない二人の老嬢たちの話、冬になるとすつかり雪に埋まつてしまふこんな寒村に一人の看護婦を相手に暮らしてゐる老醫師とその美しい野薔薇の話、ときどき氣が狂つて溪流のなかへ飛び込んで罵りわめいてゐるといふ木樵の妻とその小娘の話、——さういふやうな人達のとりとめもない幻像（イマアジュ）ばかりが私の心にふと浮かんでふと消えてゆく……

堀辰雄『美しい村』野田書房、昭和9年、62頁

旧経井沢のアカシアの道にあったサナトリウム
宗像慧 撮影

堀辰雄文学記念館

〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町大字追分662 TEL・FAX: 0267-45-2050
《開館時間》9:00-17:00 (入館は16:30まで) 《料金》一般400円・小中高生200円
《休館日》水曜日(7/15(火)~10/31(金)は無休)



「美しい村」の幻像

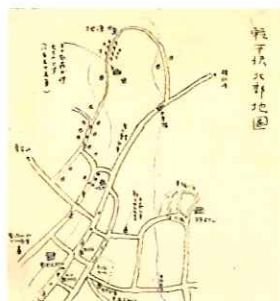
——イマージュ——



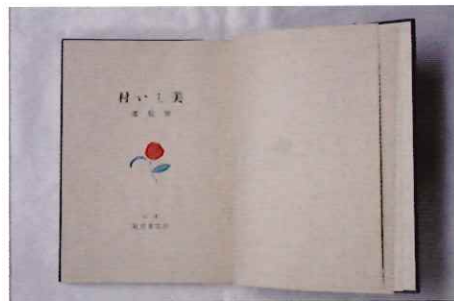
堀辰雄『美しい村』は、昭和9(1934)年4月に野田書房から刊行された、「序曲」「美しい村 或は 小遁走曲」「夏」「暗い道」の四篇と、付された「ノオト」から構成される小説です。この前年、当時29歳の堀は梅雨から夏にかけて軽井沢に滞在していました。『美しい村』には、峠の旧道から軽井沢まで夏の高原の自然が文学空間として豊かに描かれています。

また、「美しい村」の執筆時期は、堀がプルーストやゲーテといった外国文学に熱中していた時期でもあり、作中の文体や描写にその痕跡が見てとれます。

今回の企画展では、「美しい村」に文学空間として描かれた軽井沢のイメージ(フランス語で「イマージュ」と、当記念館の所蔵する堀の旧蔵書・書簡を中心に、堀辰雄の文学世界を紹介します。



堀辰雄「軽井沢北部地図」



野田書房版『美しい村』内表紙

関連イベント

※各イベントは定員になり次第締め切ります

緑陰講座 [定員: 各回 30名]

参加費: (各回) 入館料のみ
申込み: (各回) 7月1日(火) から

[1回目] 7月19日(土) 13時30分～15時

講師: 飯島洋氏(金沢大学准教授)

演題: 「堀辰雄の軽井沢
——「想像上の亡命」をめぐる——」

[2回目] 7月20日(日) 13時30分～15時

講師: 渡部麻実氏(日本女子大学教授)

演題: 「堀辰雄とく風の物語」

[3回目] 8月23日(土) 13時30分～15時

講師: 大藤敏行氏(軽井沢高原文庫館長)

演題: 「堀辰雄『美しい村』をめぐる」

子どもの文学講座 [定員: 20名]

日時: 8月6日(水) 10時～12時

講師: 福原未来氏(あそび堂 代表)

演題: 「ことばであそぼう!」

会場: 追分公民館

参加費: 無料

申込み: 7月1日(火) から

秋の散策会 [定員: 20名]

日時: 9月13日(土) 13時30分～15時

講師: 堀辰雄文学記念館 学芸員

参加費: 無料

申込み: 8月1日(金) から

〈雨天順延の場合〉

日時: 9月14日(日) 13時30分～15時

秋の朗読会 [定員: 20名]

日時: 9月27日(土) 13時30分～15時

朗読者: 軽井沢図書館朗読ボランティア「オオルリの会」

参加費: 入館料のみ

申込み: 8月1日(金) から

堀辰雄を語る会 [定員: 50名]

日時: 10月19日(日) 13時30分～15時

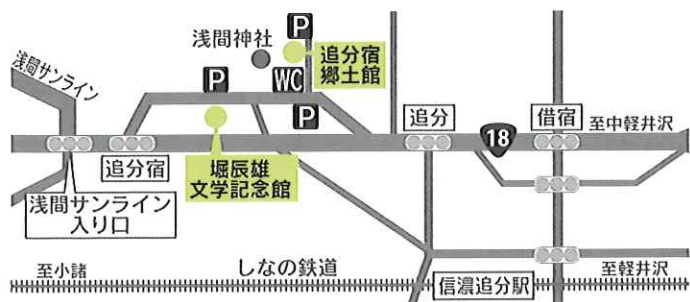
講師: 戸塚学氏(武蔵大学教授)

演題: 「堀辰雄の文学と軽井沢」

場所: 追分公民館

参加費: 無料

申込み: 9月1日(月) から



《交通案内》

- JR 北陸新幹線 軽井沢駅から車で約30分
- しなの鉄道 信濃追分駅から車で約5分、徒歩約30分
- 上信越自動車道 碓氷軽井沢ICから車で約30分、佐久IC、小諸ICから車で約20分

上記イベントのお申込みはお電話にて承ります

☎0267-45-2050

(堀辰雄文学記念館)

《インフォメーション》

開館時間 | 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 | 水曜日 ※7/15(火)～10/31(金)は無休

入館料 | 大人400円(300円)、小中高生200円(150円)

※()内は20名以上の団体 ※追分宿郷土館と共通

堀辰雄文学記念館

HORI TATSUO LITERATURE MUSEUM

〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町大字追分 662

TEL.FAX: 0267-45-2050



2025 年 (令和 7 年) 軽井沢町植物園 植物観察会

軽井沢町植物園では以下の内容で植物観察会を計画しました。
地域の多様な植物への興味を深めていただければ幸いです。

月	日	曜日	受付開始	主な内容 (予定)
○春の植物観察				
4 月	13 日	日	8 日 (火)	1 フサザクラ 花卉がない？桜の花
	27 日			2 ヒトリシズカ 花卉 わたしありません バイモ 葉の先は巻きひげの様になります
○春の植物観察				
5 月	11 日	日	6 日 (火)	3 タデスミレ 蟻が種子運びます 長野県指定希少野生植物
	25 日			4 ヤマグワ 同じ樹に形の異なる葉をもちます
○初夏の植物観察				
6 月	8 日	日	3 日 (火)	1 サンショウとサンショウバラ 似てるところ 違うところ
	22 日			2 ヤマタバコ 煙草とは違います 長野県指定希少野生植物
○夏の植物観察 いろいろな雄しべ				
7 月	13 日	日	8 日 (火)	1 ナツツバキとヤマハギ お隣り同士くっついている雄しべ
	27 日			2 ヤマユリ 粘り気のある花粉をもつゆらゆらゆれる雄しべ ツユクサ 花粉をつくらない雄しべ
○夏の植物観察				
8 月	10 日	日	5 日 (火)	3 レンゲショウマ 毎年多くの方に撮影されます キキョウ 多様性を高める花の工夫
	24 日			4 ヒメマツカサススキ 牧野博士が軽井沢で発見！
○秋の植物観察				
9 月	14 日	日	9 日 (火)	1 ヤマトリカブト 兜のような花で昆虫を誘導
	28 日			2 ナツハゼ ブルーベリーに似た実はジャムにも
○秋の植物観察				
10 月	12 日	日	7 日 (火)	3 ハナヒョウタンボク 町の準町花は氷河時代の生き残り？
	26 日			4 モミジ類 シナノキ 風で運ばれる種子のいろいろ

会 場： 軽井沢町植物園

時 間： 午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分

参加料： 無料 *ただし入園料として小学生以上一人一回 100 円が必要です*

定 員： 先着 30 名

申込み： 開催月の受付開始日の午前 9 時から電話または植物園窓口での申込みをお願いします。

問合せ・申込み先： 軽井沢町植物園 電話 0267-48-3337

〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町発地 1166

☆天候状況などにより時間の短縮や観察会を中止にする場合があります。

☆植物の生育状況などにより内容を変更する場合があります。